

長野県社会福祉士会 NEWS

第193号
2022/11/1



発行▶公益社団法人長野県社会福祉士会
会長 上條 通夫
事務局▶〒380-0836長野市南県町685-2
長野県食糧会館6F
編集▶広報編集委員会
発行部数▶2,400部

TEL▶026-266-0294 FAX▶026-266-0339 E-mail▶info@nacs.jp HP▶https://nacs.jp/

これからの社会福祉士の養成と社会福祉士の役割 … 1
社会福祉士が担う今後の社会福祉士養成の主な役割と
養成校におけるカリキュラム見直しについて …… 2
社会福祉士養成検討プロジェクトの取り組み …… 3
特集Ⅰ 社会福祉士実習の現状と課題について … 4~5

contents

特集Ⅱ 地域における社会福祉士の役割・実践・
学びとは …………… 6~7
リレーエッセイ …………… 8
信州ぐるっと!! …………… 8
編集後記 …………… 8

巻頭言

これからの社会福祉士の養成と社会福祉士の役割

鈴木 由美子 (公立大学法人長野大学社会福祉学部准教授・本会会員)

今回の社会福祉士養成教育課程見直しの背景には、近年の複雑化・複合化した生活課題／ニーズに対応するために、従前の対象者別・機能別（縦割り）に整備された公的支援では対応困難な状況があることの指摘から、「地域共生社会の実現」を基本コンセプトとした政策があります。特に、2020年の社会福祉法改正による「重層的支援体制整備事業」の創設では、ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に対する社会的かつ政策的な期待があります。ソーシャルワークでないと解決できない生活課題・ケースの存在が確認され、社会福祉士に求められる役割を担うために必要な教育内容・ソーシャルワークの機能が整理されました。それらは当然のことながら従来から存在している機能でありながらも、学生のうちから習得できることを目標としたときに、ソーシャルワーク実習が重要な位置を占めることとなりました。

新カリキュラムは、多くの養成校で2021年度にスタートしています。①講義－演習－実習の学習循環 ②科目名にソーシャルワークを使用 ③科目の見直し ④実習時間数の拡大、2か所以上の実習施設・機関での実習への変更 の4点が大きな見直しのポイントです。実習に係る④では、実習プログラムが大きく変更されました。現行カリキュラムにおける3段階実習プログラムが見直され、いわゆる「国通知」におけるソーシャルワーク実習の「ねらい」と「教育に含むべき事項①～⑩」は、240時間以上の実習によって、網羅的に学習・習得すべき内容を提示しています。

2か所以上の実習施設・機関の実習パターンは、養成校によって多様になることが予測され、実習を受け入れる施設・機関に対して、養成校は実習の時期や学

年、実習時間数などを十分に説明する必要がありますし、養成校は実習施設・機関と協働して実習プログラムを構築していくことが強調されています。そのあたりは、お互いにどのような役割、責任があるかを理解し合っていくことも重要だと言えます。つまり、新カリキュラムで新たに留意すべき点（2か所以上・240時間以上の実習デザイン、実習評価表の変更点など）を実習施設・機関と共有し、調整することが今回の見直しにあたっての養成校の対応ポイントであり、現行カリキュラムと同様に、実習生に対する責任を果たしていきます。

先日、ある実習指導者から、「新卒採用しても、すぐに面接ができるわけではない。改善するためには、実習で実践をやる看護師や理学療法士のように、社会福祉士も実習で面接練習やロールプレイングを組み込んでいく必要性を感じている」というお話があり、実習生は了解のとれたクライアントとの面接の機会を得ました。新カリキュラム実習では、「ソーシャルワーク実践の実践的な能力を習得する」ために、「模擬的または実際の場面での実施・体験をする」とされています。もちろん、クライアントに不利益を与える可能性や関係者等にかかる負担の観点から、実施方法は検討されるところではありますが、日々取り組んでおられる現場の実践を実習生に体験させ、意識的に伝えていく機会や指導が求められるようになりました。

2011年に始まった現行カリキュラム実習も、時間をかけて現在の形に落ち着いた経過です。新カリキュラム実習も走りながらはじめてから完璧は目指さず、時間をかけて実習施設・機関と養成校が協働してつくっていく必要があると考えています。

社会福祉士が担う今後の社会福祉士養成の主な役割と養成校におけるカリキュラム見直しについて

1 社会福祉士の主な役割

2018（平成30）年3月に「ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割等について」（社会保障審議会報告書）において、地域共生社会の実現に向け、社会福祉士がソーシャルワーク機能を発揮し、制度横断的な課題や必要な社会資源の開発の役割を求められた。また社会福祉士の養成において、ミクロ・メゾ・マクロの各レベルにおけるソーシャルワーク実践が提言されている。

対応の方向性（報告書抜粋）

- (1) 地域共生社会の実現に向けて求められる、複合化・複雑化した課題を受け止める多機関の協働による包括的な相談支援体制や地域住民等が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制の構築に必要なソーシャルワークの機能を社会福祉士が担うために必要な実践能力を明らかにし、その能力を身につけることができるよう、社会福祉士の養成カリキュラム等の見直しを検討すべきである。
- (2) 地域共生社会の実現に向けて、その担い手となる社会福祉士の育成に当たっては、職能団体、養成団体、事業者、行政、地域住民等の地域の関係者が連携・協働して学び合い、地域の実情を踏まえて取り組むことが重要である。このため、職能団体や養成団体等が中心となって地域でソーシャルワークの機能が発揮されるような取組の推進を検討すべきである。
- (3) 社会福祉士の地域共生社会の実現に向けた活動状況等を職能団体が中心となって把握するとともに、社会福祉士が果たしている役割や成果の「見える化」を図り、国民や関係者の理解を促進する方策を検討すべきである。

2 社会福祉士養成カリキュラムの主な変更点

1 科目名の変更：「相談援助」から「ソーシャルワーク」へ

旧カリキュラムの科目名にあった「相談援助」という言葉はなくなり、「ソーシャルワーク」という言葉が使われるようになった。これまで個別の相談援助が仕事のメインだった社会福祉士がより幅広く活躍できる人材の育成することを表している。

2 新設科目の追加：「地域福祉と包括的支援体制」

社会福祉士が今後、地域共生社会を構築する役割を担うために、「地域福祉と包括的支援体制」の科目が創設された。地域福祉の考え方から多職種との連携、地域ネットワークを構築するための知識などを分野横断横串の科目として追加された。

3 実習の名称変更と実習時間数および実習先の追加

旧カリキュラムの「相談援助実習」は「ソーシャルワーク実習」に変更となり、実習時間数も180時間以上から**240時間以上**に拡充した。実習先も1カ所以上だったところが、**2カ所以上の事業所・施設・相談機関で行うこと**になり、**1カ所の実習施設・機関で180時間以上の実習**が基本となる。新たに都道府県社会福祉協議会や教育機関、地域生活定着支援センター等の地域ニーズを学べる実習先も増えた。

3 今後の対応

新カリキュラムは養成校である大学等において、2021年度入学者から実施され、2024年の第37回社会福祉士国家試験から試験内容にも反映される。本会としては、社会福祉士実習指導者講習会の開催や国家試験受験者の支援、社会福祉士養成の検討プロジェクトにおいて、実習施設の受入れ実態調査や実習指導者に対するフォローアップ研修も行う予定である。

社会福祉士養成検討プロジェクトの取り組み

平成30年度より社会福祉士の実習受け入れを検討する「社会福祉士養成検討プロジェクト」が発足し、7名のプロジェクトメンバーと1名の担当理事により、社会福祉士養成における実習の現状・課題を把握する取り組みや、将来を担う学生へ社会福祉士の魅力を発信していく取り組みを進めています。

<パンフレット「社会福祉士の仲間を増やそう」発行・配付>

令和3年度には本プロジェクトが中心となり、社会福祉士を目指す学生の実習先と実習指導者の拡大を図ることを目的としたパンフレット「**社会福祉士の仲間を増やそう**」を作成いたしました。誌面には実習生や実習指導者の声を掲載し、また実習から就職に結びついた方もご紹介しています。このパンフレットを通して実習の意義や魅力を発信し、実習受入事業所や実習指導者が増えていくことを期待して、各会員や県内各事業所および養成校へ配付しご活用いただいています。



<実習指導者座談会の開催>

また令和2年度より、実習指導の喜びや悩みなどを共有して今後の実習指導に活かしていくことを目的に、「**実習指導者座談会**」を不定期開催しています。既に活躍されている実習指導者の方、これから受け入れを検討している実習指導者の方、今後実習指導者の資格取得を検討している方、また養成校の先生方にも多数ご参加いただき、実践報告の共有や情報交換を重ねてきました。

今回の社会福祉士養成カリキュラムの見直しにあたり、令和4年1月29日に開催した座談会では長野大学社会福祉学部の鈴木由美子准教授を講師としてお招きし、「**新カリキュラムについて学ぼう**」と題したテーマで、12人の参加者にて理解を深めました。新カリキュラムでは実習時間が180時間から240時間へ増え、2カ所以上の施設で実習を行うこととされており、養成校と複数の実習指導者との連携した実習指導が必要であることを、この座談会の中で学びました。

<実習受入施設一覧の作成・配付>

そこで、今年度の本プロジェクトによる新たな取り組みとして、県内の各施設・事業所のご協力をいただきながら「**令和4年度長野県内の社会福祉士実習受入施設一覧**」を作成しました。(今号の広報誌に同封しています。) 学生および養成校と実習指導者間で受入可能な施設を一覧で共有することにより、学生の実習選択肢が広がるとともに、養成校と複数の実習指導者との連携した実習指導につながることを期待できます。今後、掲載未同意の施設等にもご理解をいただきながら、年度単位で一覧の更新を行っていく予定です。(次年度の**令和5年度実習受入施設一覧作成に向けた依頼**も、今号の広報誌にあわせて同封しています。)

他にも本プロジェクトでは、将来を担う中高生などの若者たちに社会福祉士の資格やソーシャルワークの仕事内容を本会会員の活躍を通して紹介し、進路を考えるにあたっての一つの選択肢として社会福祉士を目指してもらえるような魅力を発信する取り組みも進めています。今後も皆様と一緒に本プロジェクトを進めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

社会福祉士実習指導者に聞く 「社会福祉士実習の現状と課題について」

北信地区

氏名：中村 匠 吾
所属：長野市社会事業協会 はなみずき放課後等デイサービス



<社会福祉士養成実習の受け入れ状況>

今年度は、2つの大学から2人ずつ計4人の方を受け入れさせていただきました。

<実習指導者として心がけていること>

- ・実習生と対等な関係を築いていくこと、事業所の一員となり利用児と関わっていただけることを心がけている。
- ・実習生にも事業所を評価してもらうプログラムを意図的に用意している。
- ・実習を通して、“福祉の魅力”を伝えたいと考えているが、始めから利用児と多く関わりを求めたり、言葉で魅力を伝えようとはせず、学生のモチベーションを高めてもらう工夫をしつつ、学生が自ら“利用児と関わってみたい”“ここをもっと聞きたい、学びたい”と考えてもらえるようにこちら側が振舞っていくことを意識している。

<養成校の新カリキュラムへの対応と課題>

- ・事業所同士の連携を伝えていけるプログラムを新たに導入して対応していこうと考えている。
- ・現状のカリキュラムの中でも、実習プログラムを全て伝えることは、タイトなスケジュールである。どのように工夫して、伝えていけるかが課題。

<これから社会福祉士を目指す方々に期待すること>

実習の中で、私たちの仕事は、“体力勝負”ではなく“頭脳労働”であると伝えている。

“本気で”利用児本位で考えていくために、“世話を焼く”“職員がたくさん遊んであげる”“何かあれば職員が乗り越えさせてあげる”ではなく、“利用児童の将来につながっていく”を第1に考えられる力をつけてほしい。

また利用児に対して、“意図を持って関わる”ことができる職員が増えていくことを願っているし、“なぜ”という視点を常に持ち、“常に考え、学んでいく”ことを継続していける力をつけてほしい。

東信地区

氏名：高橋 航 平
所属：社会福祉法人 小諸市社会福祉協議会



<社会福祉士養成実習の受け入れ状況>

例年2人程度の実習生を受け入れており、各係にいる実習指導者が持ち回りで指導にあたっています。

コロナ禍で事業の中止などがあり、社会福祉協議会の本分である地域福祉について肌で感じていただく機会が減っていることが課題だと感じています。その点においてはコロナ禍であっても対応できるプログラムの構築が必要だと思います。

<実習指導者として心がけていること>

実習中はスーパービジョンの中で、自分の考えを言語化していただく機会を意図的につくるように心掛けています。相談援助の実践現場で感じた疑問やジレンマなど、実習指導者等と意見交換を重ねるなかで得られる「気づき」があると思います。実習生自身の気づきを大切にしながら、一緒に考えることのできる実習指導者を理想としています。

<養成校の新カリキュラムへの対応と課題>

当会では、実習指導者が複数在籍していることもあり、実習指導に関する新カリキュラムへの移行について、また基本実習プログラムの策定等について、情報交換や協議をする場を設けています。新カリキュラムでは、前期と後期で実習機関が異なるため、養成校を含め、実習機関同士の連携がとれる環境づくりが課題だと感じます。新たなカリキュラムとなるなかで実習機関・実習指導者の負担が過度に増えないように法人全体で取り組んでいきたいと思っています。

<これから社会福祉士を目指す方々に期待すること>

相談援助場面では自分の経験や知識から、制度や法律にとらわれて考えてしまいがちです。私自身、生活課題を抱えている方に対して制度ありきで支援について考えるのではなく、その方の生活歴や背景にも目を向け、寄り添った支援ができるようになりたいと思っていますし、皆さんにもそうなっていただきたいと思っています。

中信地区

氏名：丸山 健太
所属：北アルプス医療センターあづみ病院 居宅介護支援事業所



<社会福祉士養成実習の受け入れ状況>

事業所としては、地域や院内の新型コロナウイルスの発生状況で5段階の対策があり、感染レベルが一番高いフェーズ5であっても人材育成のために、限定して受け入れを行うという改訂が8月にあったため8月末からの実習生を1人受け入れることができた。

<実習指導者として心がけていること>

実習生の話を知ると、周りの実習生のほとんどが現場での実習が中止となり対面して人と話す機会自体がないという現実を知り、指導者としてはできるだけ実習生に今思っていること、考えていることを表出してもらう時間をつくり、臨機応変にプログラムも変更し一緒につくっていくということを心掛けている。また居宅介護支援事業所として社会福祉士実習の受け入れは初めてなため、職員が普段の業務を振り返り学生に言語化し伝えることで職員のスキルアップも期待している。

<養成校の新カリキュラムへの対応と課題>

当事業所では60時間実習を受け入れる予定で、厚生労働省指針で示されている実習のねらい・教育に含むべき事項をどれだけ盛り込むことができるか不安がある。また2カ所実習ということで、もう1カ所の事業所との役割分担も必要であることから、受け入れるまでに事業所間でどの部分を担うのかについて話し合う機会をつくっていく必要がある。

<これから社会福祉士を目指す方々に期待すること>

新カリキュラムが示しているように、目の前の困っている人がなぜ困っているのかを社会を通じて理解し、その地域社会をどのように学んでいくのか、実習を受け入れる側に求められているのだと捉えています。

社会福祉士を目指す方にとって事前準備から実習、その後の学びまで求められるものが大きいと思いますが、視野の広い、柔軟な社会福祉士になっていくためのステップであると期待しています。実習先としても一つでも多くの気づきのある実習となるように準備していきたいと考えています。

南信地区

氏名：桜井 幸雄
所属：社会福祉法人 諏訪市社会福祉協議会



<社会福祉士養成実習の受け入れ状況>

ここ最近では昨年度に実習生の受け入れをしております。基本的には諏訪市出身者からの希望があった場合に対応しております。2～3年に1人が実習に見える状況です。昨年度はコロナ禍ではありましたが、大学の健康管理の方針に基づいて対応いたしております。

<実習指導者として心がけていること>

本来でしたら実習指導者としての社会福祉士の動きに同行して、それを学んでいただくのが一番良いのですが、社会福祉協議会事務局長の立場での実習指導は、他の職員に同行をお願いすることになります。このため、スーパーバイザー的なかわりになっていることが多くありますので、実習生にできるだけ自分で考えて行動や学習をしていただくようにしています。

<養成校の新カリキュラムへの対応と課題>

まだそこまでの学習ができておりません。今後は、他の職員に実習指導者としてお願いしながら、バックアップしていけたらと思っております。

<これから社会福祉士を目指す方々に期待すること>

社会福祉士は生涯学び続けることになります。社会福祉の領域だけではなく、趣味や特技も含めた幅広い学びや経験を通して、人間としての総合力をつけていけたらと思っております。「すべてのことが無駄ではないこと」といった貪欲な姿勢で社会福祉士としての人生を歩んでいただけたらと思っております。

長野県社会福祉士会設立30周年を迎えて 地域における社会福祉士の役割・実践・学びとは

長野県社会福祉士会設立30周年を迎えて、長野県下4地区における地区活動や今までの取組みを紹介します。

東信地区

西澤茂洋
(東信地区支部長)

1 地区活動の特徴と今までの取組み

東信地区では、上小地域と佐久地域に分かれて地区活動委員会の委員を選任し、それぞれの地区を中心に活動を行っています。全県で行われる活動の企画にかかわるだけでなく、福祉活動委員会・ぱあとなあながの運営委員会等が、地区独自の研修・情報交換・自主勉強会などを行っています。昨年までは年度ごとにテーマを決め、その分野で活躍している地区会員の話を聞く機会や、事例提供を受けて検討会を開催したりしていました。

2 今年度の地区活動

コロナ禍でも研修等の機会を確保するため、主にオンラインにて、各活動を行っています。今年度は、福祉活動委員が全県で企画する各テーマに沿った研修会に地区委員も参画し、学びの機会を作っています。またオンラインでの交流会も行い、近況報告など情報交換する機会も作っています。感染症の状況が落ち着いたら、実際に顔を合わせての研修会も行い、社会福祉士会の会員が増えるような活動をしていきたいと考えています。

3 これからの地区における社会福祉士のあるべき姿について

相談支援の専門職として、社会福祉士が求められる役割が近年増えていることを自覚して、自ら行動を起こして欲しいです。社会福祉士倫理綱領に定められた原理である「人間の尊厳」や「人権」を守るための活動をするには、日々変わりゆく増えていくさまざまな福祉課題を知る必要があります。そして行動規範には、専門職としての倫理責任研修・情報交換・自主勉強会などの機会を活かして常に自己研鑽しなければならないと謳われています。地区会員の皆さんが研鑽できる機会を作るので、自身の職種や仕事上の所属にとらわれず、社会福祉士の有資格者として自信をもって活動できるようにして欲しいです。東信地区で活躍している仲間はたくさんいます。ぜひ積極的に会の活動に参加してください。

北信地区

塩澤宏之
(北信地区支部長)

1 地区活動の特徴と今までの取組み

北信地区では、中期ビジョン2020に基づき事業計画や事業方針を立て活動を行っています。令和の時代に入り自然災害や感染症は、地区活動にも大きな影響を及ぼしました。

コロナ禍においても学習会等の活動を続け、多くの会員が学び合い、つながるよう取り組んでいます。参加者が限定的であるという課題はありますが、初めて活動に参加される方や数年ぶりに参加される方も多く、今後の地区活動の活性化につながるものと思います。

2 今年度の地区活動

今年度は、福祉活動委員会や他の地区との合同により、学習会活動を開催しています。

相互の連携・協働により、これまで以上に医療・福祉課題を共有し学びを深めるとともに、運営の担い手や参加者の拡大にもつながるよう取り組んでいます。今後も各分会で企画する学習会が予定されていますので、多くの会員の皆様に参加いただきたいと思います。また、今年度はプロジェクトチーム等と連携し、若い会員の交流を促進する活動も行っています。

3 これからの地区における社会福祉士のあるべき姿について

中期ビジョン2020では「会員が主体的かつ多様な方法で、会の運営に参画できる仕組みが構築でき、運営の担い手の拡大や組織率の向上、会活動の活性化が図れる。」を2024年度までに目指す姿(目標)としています。団体設立から30年、地区活動の運営体制や活動の参加者は限定的であるという課題を踏まえ、地区活動の活性化・充実に向けた検証と見直しが求められています。多様な分野・業種・職種で活動する会員が、主体的に参画し、繋がり、研鑽する場(機会、仕掛け)を作ることにより、専門職としての資質向上や会員の組織率向上などにつながるものと思います。地区活動の活性化・充実は、会活動の発展に重要です。皆様のご意見をもとに、地区活動への参加に向けた検討を進めていきたいと思っています。

各地区の社会福祉士が、地域課題や社会福祉士に関するさまざまな領域のテーマを扱い学習会や研修会を行っています。コロナ禍でのオンライン形式や今までの対面での参加を交えながら、積極的にネットワークづくりを進め、今後も地域福祉の向上に貢献していきます。

中信地区

田中 雄一郎
(中信地区支部長)

1 地区活動の特徴と今までの取り組み

地区活動の特徴は、近い関係性を活かしたさまざまな分野をまたいだ「顔の見える」対面での学習や交流だと思います。

コロナ禍になる前は会場を使って学習会や交流会を行いました。また、暑気払いや忘年会などの交流会を開催。地区で活動する仲間づくりをしてきました。

また、地元の松本大学と連携した学生向け企画「社会福祉士ってナンだ」や新入会員向けの学習会等の取り組みを進めてきました。

2 今年度の地区活動

ここ数年はZoomによるウェブ学習会や交流会のみ開催となっています。

4月に会員同士の近況を報告し合う情報交換会を開催。その後は福祉活動委員と連携した重層的支援体制整備事業に関する学習会を開催しています。

今年度は対面での学習会開催を企画しています。夏に開催を予定していましたが、感染拡大により延期し、12月頃に開催しようと企画を進めています。詳細は長野県社会福祉士会ホームページやメール等でお知らせします。是非ご参加ください。

3 これからの地区における社会福祉士のあるべき姿について

職場によっては、社会福祉士の仲間が少ないところや、ひとり社会福祉士という方もいると思います。

社会福祉士の資格は学びを続けることがとても大事ですが、「楽しく学ぶ」ことは、いつまでも学び続けるためにとても重要な要素だと思います。地区活動は顔の見える活動を通して、相談できる仲間づくり・関係づくりができるとても貴重な機会です。まだまだ新型コロナウイルス感染症による影響は大きいですが、これからも地区役員全体で直接会える学習会や交流会の場づくりに頑張りますので、是非ご参加ください。

南信地区

原 智美
(南信地区支部長)

1 地区活動の特徴と今までの取り組み

地域が広範囲で集まることが難しかったために、諏訪、上伊那、南信州のそれぞれのブロックで学習会の開催を主にしてきました。

コロナ禍は、学びを止めないということでオンラインを活用し、各ブロックで当番月を決め、ほぼ毎月学習会に参加できるようにしました。オンライン開催は、ブロック、地区外からだけではなく、会員外の参加にもつながっています。

内容は、福祉活動委員が中心となり企画をし、ブロックの中には年間のテーマを決める等をし、ブロックの特色を活かしながら行っています。

2 今年度の地区活動

南信地区として独自に開催することで会員の身近なテーマを取り扱っていただけるようにしながら、各ブロック2回ずつ学習会を企画しています。

オンラインの学習会の課題として、初めてだと雰囲気かわからず参加しづらい、交流ができないという声があり、「会について知ろう」をテーマに、会の紹介、インタビュー、グループセッションをし、そこに一人誘って参加をすることや、オンラインでの交流会を企画し、学ぶだけではなく、関係づくりにも取り組んでいます。

3 これからの地区における社会福祉士のあるべき姿について

地域でその人らしい生活を支えていくために、専門職との連携はもちろん、起きている課題を住民の方々とも、一緒に考え取り組んでいけるよう話をしたり、考える場を設け取り組んでいくことが、社会福祉士の姿だと考えます。

そのためには、まず社会福祉士自身がいきいきと自分らしく暮らし、身近な職場や会員の仲間等とコミュニケーションを図り、協力、お互いのできないことも補いながら、それぞれの立場で住みよい社会に向けてできることから取り組んでいくことが大切だと思います。

また、関心を持ってもらうことや、協力者を増やしていくためにも、活動の発信をしていくことも必要な取り組みです。

「行けばわかる…かも」

西澤 美佳子（長野市民病院）

社会福祉士を取得してから、多くの経験をさせていただきました。そのすべてが、私にとって学びであり、また反省であり。いろんな感情を味わった時間でもあります。

今、病院という「生命」と向き合う現場で、医療職と一緒に患者さんの療養・社会生活を支援していく立場にいます。現場には常に一定の「緊張感」が漂い、患者さんの人生の一コマに少しだけ関わる立場として、私たちにもある種の「緊張感」があります。

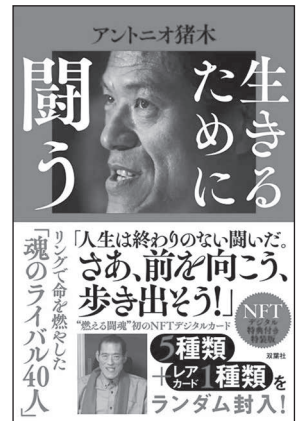
実践も人生も、時に迷い、その一歩が踏み出せないとき、私はある言葉を思い出します。「迷わず行けよ。行けばわかるさ」（もちろん、闇雲に突き進むことではなく）

私が現場に出ると決めたとき、ある方からいただいたはなむけの言葉、アントニオ猪木さんの『道』その最後の一節です。

猪木さんも晩年は難病と闘っていました。最期の動画では、今後やりたいことをいくつかあげ、生きることへの希望を失っていなかったように思います。

今日も、患者さんの「病があっても自分らしく生活したい」に寄り添っていきたいと、猪木さんの言葉を思い出しながら、向き合っています。

*次号は、長野市地域包括支援センター富竹の里 竹内 春美さんにバトンタッチします。



信州ぐるっと!! ～県内の特色ある福祉活動を紹介～

～そば切り音頭で絆づくり～

横澤 いずみ（大町市南部地域包括支援センター）

私たちは介護予防の一環として、オリジナルの介護予防体操を作って推進しています。

「トリオ・デ・ふるさと」さんが歌う「信州そば切り音頭」が軽快で、楽しく、元気が出るいい曲だったため、許可をもらい、この曲を使用させていただきました。

元々あった踊りに、講演会でお世話になった、信州大学整形外科中村幸男先生の推奨している骨粗鬆症予防につながる動き「かかと落とし運動」を入れたり、高齢者や地域の人が親しみやすく気軽に踊れるようにアレンジしました。「骨粗鬆症予防の骨」と、「こつこつやりましょう」というところから【信州そば切り音頭～骨こつ南部包括バージョン】と命名し、介護予防体操が誕生しました。

職員で作ったユニット「スマイルダンサーズ」に加え、講習会で誕生した、20人の地域のインストラクター「ハッピーフレンズ」が、推進を手伝ってくれています。地域の皆さんがとても盛り上げてくれており、体操を通じてさまざまなつながりが生まれています。いわば、地域のつながりや絆が育ててくれる介護予防体操です。

今では、コロナ禍で暗くなった地域の応援ソング。

人と人をつなげるツールとなっております。



今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ（<https://nacs.jp>）をご覧ください。

日時(曜日)	事業名・研修名	会場	備考
11月6日(日)	基礎研修Ⅰ 第2回	オンライン	
11月13日(日)	医療的ケア児・者支援シンポジウム	オンライン	基調講演：亀井智泉氏
11月24日(木)	累犯障がい者・高齢者の支援を考えるセミナー	オンライン	講演：高坂朝人氏
11月26・27日	成年後見人材育成研修 第3回・第4回	オンライン	

◎ 入会状況（2022年9月末現在） * 会員数：1,217人 入会率：26.10% 人口10万人あたりの会員数：59.86人

編集後記

「社会福祉士の国家試験に合格したら、専門職団体に入会しよう」—そう思いながら勉強し、実習に励み、受験に挑戦し、長野県社会福祉士会の会員となって数年が経過した。いまだ収束が見えないコロナ禍の中で、未来の社会福祉士の実習先となる機関はどのように受け入れ態勢を整え、関わりを持ち、課題を抱えながら指導しているのか、より多くの方の参考になれば幸いである。

(M.O)